老子 上善若水・小国寡民

名前（　　）　日づけ（　／　）　できた数（　／28）

使い方　書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この二章の山は、比況「ごとし（若）」、使役「AをしてBしむ」、「雖〜」「無所〜」、意動「其の食を甘しとし」、そして水のたとえと理想の国**です。

内容＝第八章：最高の善は水のようだ。水はあらゆるものに恵みを与えながら争わず、人のいやがる低い所に身を置くので、道に近い。ただ争わないからこそ、とがめを受けない。第八十章：国は小さく民は少ないのがよい。便利な道具や舟・車・武器があっても使わず、人々は昔のように縄を結んで用い、自分たちの食べ物・衣服・住まい・風俗に満足して、隣の国がすぐそこに見えても一生行き来しない。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

【第八章】上善（じやうぜん）は①水（みづ）のごとし。水（みづ）は②善（よ）く万物（ばんぶつ）を利（り）して争（あらそ）はず、③衆人（しゆうじん）の悪（にく）む所（ところ）に処（を）る。故（ゆゑ）に④道（みち）に幾（ちか）し。⑤居（きよ）は地（ち）を善（よ）しとし、心（こころ）は淵（ふち）を善（よ）しとし、与（あた）ふるは仁（じん）を善（よ）しとし、言（げん）は信（しん）を善（よ）しとし、正（せい）は治（ち）を善（よ）しとし、事（こと）は能（のう）を善（よ）しとし、動（うご）くは時（とき）を善（よ）しとす。⑥夫（そ）れ唯（た）だ争（あらそ）はず、故（ゆゑ）に尤（とが）め無（な）し。

【第八十章】⑦小国（せうこく）寡民（くわみん）。⑧什伯（じふはく）の器（き）有（あ）るも用（もち）ゐざらしめ、⑨民（たみ）をして死（し）を重（おも）んじて遠（とほ）く徙（うつ）らざらしむ。⑩舟輿（しうよ）有（あ）りと雖（いへど）も、之（これ）に乗（の）る所（ところ）無（な）く、⑪甲兵（かふへい）有（あ）りと雖（いへど）も、之（これ）を陳（つら）ぬる所（ところ）無（な）し。人（ひと）をして⑫復（ま）た縄（なは）を結（むす）びて之（これ）を用（もち）ゐしめ、⑬其（そ）の食（しよく）を甘（うま）しとし、其（そ）の服（ふく）を美（び）とし、其（そ）の居（きよ）に安（やす）んじ、其（そ）の俗（ぞく）を楽（たの）しましむ。隣国（りんごく）相（あひ）望（のぞ）み、⑭鶏犬（けいけん）の声（こゑ）相（あひ）聞（き）こゆるも、民（たみ）⑮老死（らうし）に至（いた）るまで、相（あひ）往来（わうらい）せず。

語注　上善＝最上の善。もっともすぐれたあり方。万物＝あらゆるもの。道＝老子が説く、万物を生み出し動かしている根本のはたらき。淵＝水が深くよどんだ所。ふち。仁＝思いやり。信＝誠実さ。正＝ここでは「政」と同じで、政治のこと。能＝能力・はたらき。徙る＝移り住む。舟輿＝舟と車。結縄＝縄の結び目を約束や記録のしるしにすること。文字のなかった大昔のやり方とされる。俗＝風俗・ならわし。※本文は『老子』王弼本による（字は日本の字体に直した）。第八章の「正」を「政」、第八十章の「人をして」を「民をして」とする本もある。※書き下し文は教科書によってちがう。とくに第八章の「居は地を善しとし…動くは時を善しとす」は読み方が大きく分かれる（「居には地を善しとし」「心には淵なるを善しとし」など）。第八十章も、「什伯の器有れども用ゐざらしむ」と読むものや、「民をして…徙らざらしめば」「其の俗を楽しましめば」と「しめば（〜させたならば）」で後ろへ続けるものがある。お使いの教科書に合わせること。

老子 上善若水・小国寡民

A 語句の意味と読み（1〜8）

(1) ②「善（よ）く万物（ばんぶつ）を利（り）して争（あらそ）はず」の「利す」の意味を書け。

(2) ③「衆人（しゅうじん）の悪（にく）む所（ところ）」の「衆人」と「悪む」の意味を書け。

(3) ④「道（みち）に幾（ちか）し」の「幾し」の意味を書け。

(4) ⑤「居（きよ）は地（ち）を善（よ）しとし」の「善しとし」の意味を書け。また、②の「善（よ）く」とは意味がどうちがうか。

(5) ⑥「夫（そ）れ唯（た）だ争（あらそ）はず、故（ゆゑ）に尤（とが）め無（な）し」の「尤め」の意味を書け。

(6) ⑦「小国（せうこく）寡民（くわみん）」の「寡」の意味を書け。

(7) ⑧「什伯（じふはく）の器（き）」とはどのようなものか。

(8) ⑪「甲兵（かふへい）」の意味と、「陳（つら）ぬる」のここでの意味を書け。

B 句法（9〜15）

(9) ①「水（みづ）のごとし」の「ごとし」にあたる字を、白文から一字で抜き出せ。また、この字が表す句法の名と、書き下し文で平仮名にする理由を書け。

(10) ⑥「夫（そ）れ唯（た）だ争（あらそ）はず、故（ゆゑ）に尤（とが）め無（な）し」は、白文では「夫唯不争、故無尤」である。「不」と「無」は、書き下し文でそれぞれどう書かれているか。また、そのように書き分けるのはなぜか。

(11) ⑨「民（たみ）をして死（し）を重（おも）んじて遠（とほ）く徙（うつ）らざらしむ」は、白文では「使民重死而不遠徙」である。この文に使われている句法の名と、「使A B」の書き下しの型を書け。

(12) ⑧「什伯（じふはく）の器（き）有（あ）るも用（もち）ゐざらしめ」の「有るも」の「も」と、⑨の「重（おも）んじて」の「て」は、どちらも白文の「而」の働きを送り仮名で表したものである。それぞれの「而」の働きを書け。

(13) ⑩「舟輿（しうよ）有（あ）りと雖（いへど）も」の「雖」の読みの型と意味を書け。

(14) ⑩「之（これ）に乗（の）る所（ところ）無（な）く」は、白文では「無所乗之」である。「無所〜」の読み方と意味を書け。

(15) ⑬「其（そ）の食（しよく）を甘（うま）しとし」は、白文では「甘其食」である。「甘」はここでどのような意味を表しているか。「〜しとす」と読むことにふれて書け。

C 主語・指す内容（16〜18）

（16）③「衆人（しゅうじん）の悪（にく）む所（ところ）に処（を）る」の主語を、本文中の語で答えよ。また、「衆人の悪む所」とは具体的にどのような所か。

（17）⑧「什伯（じふはく）の器（き）有（あ）るも用（もち）ゐざらしめ」で、道具を使わないように「させられる」のは誰か。⑨の中の語で答えよ。

（18）⑮「老死（らうし）に至（いた）るまで、相（あひ）往来（わうらい）せず」とあるが、誰と誰が行き来しないのか。

D 口語訳（19〜22）

（19）②③④を含む「水は善く万物を利して争はず、衆人の悪む所に処る。故に道に幾し」を口語訳せよ。

（20）⑥「夫れ唯だ争はず、故に尤め無し」を口語訳せよ。

（21）⑩⑪を含む「舟輿有りと雖も、之に乗る所無く、甲兵有りと雖も、之を陳ぬる所無し」を口語訳せよ。

（22）⑭⑮を含む「隣国相望み、鶏犬の声相聞こゆるも、民老死に至るまで、相往来せず」を口語訳せよ。

E 内容・記述（23〜25）

（23）①「水（みづ）のごとし」とあるが、老子が水を最高の善のたとえにしたのはなぜか。②③の内容をふまえて、六十字以内で書け。

（24）⑫「復（ま）た縄（なは）を結（むす）びて之（これ）を用（もち）ゐしめ」とあるが、これはどのような暮らしにもどらせることをいうか。四十字以内で書け。

（25）⑮「相（あひ）往来（わうらい）せず」とあるが、この国の人民が隣の国と行き来しないのはなぜだと考えられるか。⑬をふまえて、五十字以内で書け。

F 文学史・思想（26〜28）

（26）『老子』は別名を何というか。また、老子と、その思想を受けついだ荘子の考えをあわせて何と呼ぶか。

（27）老子の思想の中心を表す四字熟語を書け。また、その意味を、⑧「什伯（じふはく）の器（き）有（あ）るも用（もち）ゐざらしめ」にふれて説明せよ。

（28）儒家（孔子・孟子など）は「仁」「義」「礼」を学んで身につけることを重んじた。これに対して老子はどのような立場をとったか。『老子』第十八章の「大道廃れて仁義有り」の意味にふれて説明せよ。

【テスト直前チェック】この三つ　❶「若」は比況の「ごとし」。「上善は水のごとし」＝最高の善は水のようだ。書き下し文では平仮名。「もし」「なんぢ」と読む「若」と区別する。 **❷使役「AをしてBしむ」と「雖〜」「無所〜」。**「民をして〜徙らざらしむ」＝民に〜させる。「舟輿有りと雖も、之に乗る所無く」＝あっても、乗ることがない。 **❸意動「其の食を甘しとし」＝おいしいと思う。**暮らしに満足しているから、隣国とも「相往来せず」。水の「争はず」とあわせ、欲ばらず争わない**無為自然**が記述の決め手。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる